

BCG（結核）定期予防接種にあたって

☆接種される前に必ずお読みください☆

結核とはどんな病気？

結核は、結核菌という細菌が体の中に入ることによっておこる病気です。人が生まれてはじめて結核菌を吸い込んだ場合、10～15%の人ではその後1、2年のうちに発病しますが、その他の人では菌は冬眠状態でしばらく体内に留まることになります。このようにして結核菌が体内に潜んでいる人が、その後何らかの都合で身体の抵抗力が落ちると、潜んでいた菌が活動を始め、結核を発病してしまうことになります（菌が体内に留まったケースの10～15%程度と言われています）。

結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いですが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では全身に及び重篤な結核につながりやすいと言われています。

結核は今でも発生しているのですか？

結核はわが国の主要な感染症の一つです。結核の発生は人口の多い大都市部で多い傾向にあります。また、BCG 接種の影響もあり、日本では小児の患者は少なく、高齢者の発症が大部分を占めます。結核の発生状況等に関するより詳しい情報については、厚生労働省の結核登録者情報調査年報集計結果をご覧ください。

接種時期・回数について

- ・対象者：標準的な接種期間は生後5か月に達した時から生後8か月に達するまでの期間
※法定接種年齢の「1歳に至るまでの間」は無料で受けられます。
- ・接種回数：BCG ワクチンを1回接種します。

コッホ現象、副反応

BCG は牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。BCG の接種方法は、管針法といってスタンプ方式で、上腕の2か所に押しつけて接種します。接種したところは、日陰で10分ほど乾燥させてください。

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後約4週間に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG 接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談してください。

副反応としては接種をした側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出ることがあります。そのようなときは医師に相談してください。

また、お子さんが接種前に家族など身近な人からうつるなどして結核菌に感染している場合は、接種後10日以内（接種後数日間の早い段階）にコッホ現象（接種局所の発赤・はれ及び接種局所の化膿が現れ、通常2週間から4週間後に発赤やはれがおさまり、あとが残り治癒する一連の反応）が起こることがあります。この場合は、接種を受けた医療機関を受診してください。その場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族など身近な人も医療機関でのチェックが必要となります。

※裏面も必ずお読みください

BCG 接種を受けることができない人

- 明らかな発熱（通常 37.5℃以上をいいます）を呈している人
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人（急性で重症な病気で薬を飲む必要のあるお子さんは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です）
- 接種する接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー（通常接種後 30 分以内位に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応、ショック状態になるようなはげしい全身反応）を起こしたことがあることが明らかな人
- 外傷などによるケロイドが認められる人
- その他、医師が不適当な状態と判断した人

接種を受ける際に、医師とよくご相談しなければならない場合

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害などで治療を受けている場合
- 過去の予防接種で、受けた後 2 日以内に発熱があった場合、および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある場合
- 過去に免疫不全の診断がなされている場合および近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合
- 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある場合
- このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれがある場合
- 過去に結核に感染している疑いのある場合（家族に結核患者がいて長期間に接触があった場合など）

予防接種を受ける前の注意

- 接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。（原則、保護者が望ましいです。）
- 受ける前のお子さんの体調や状態をよく観察しましょう。
- あらかじめこの説明書や送付した書類をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- 前日に入浴させて清潔にしておきましょう。

BCG 接種後の注意

- 予防接種を受けたあと 30 分程度は医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- 予防接種当日の入浴はかまいませんが、わざと接種した部位をこすることはやめましょう。
- いつも通りの生活をしてよいですが、激しい運動はさけましょう。
- 接種後、接種部位の異常な反応や高熱、けいれんなど、体調の変化があった場合はすみやかに医師の診察を受けてください。

健康被害救済制度について

定期予防接種後、引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

定期予防接種後の副反応などが生じた場合には、担当までご連絡ください。